

地域の健康を担うヘルスケア拠点の創出をめざして

～看護学部の紹介と今後の展望～

看護学部

○学部長・教授 くどう よしこ
工藤 美子

キーワード

看護，セルフケア，健康維持・増進，悪化予防，
異常の早期発見



研究概要

看護学部は、看護のさまざまな分野で活躍できる看護職を育成し、看護学の教育・研究・実践を通して、人々が安心して健康な生活を送ることができる社会を作り、学問の発展に貢献することを目的に、兵庫県立看護大学として設立され、今年で30周年を迎えました。学部教育は15の看護学領域で行っていますが、看護学研究科では、図1・2に示すように、人々のライフステージや生活の場等に着目した領域、疾患の特性や人間の機能に着目した領域、看護を提供する場や機能に着目した領域など、計18の看護学領域により教育・研究を進めています。現在、日本では医療費削減のために医療機関における在院日数が短縮化され、人々は病気を抱えながら地域で生活していけるように力をつけて退院する必要が生じ、地域社会で生活する人々は、自身の健康を維持し、病状を悪化させず、異常に早期に気づけるような力を身につけることが求められています。そのような社会情勢を踏まえて、看護学部・看護学研究科は、「地域の健康を担うヘルスケア拠点の創出」を将来計画のテーマとし、看護の力を可視化・発信しながら、データヘルスやデジタルヘルスを基盤に、地域で生活する人々が健康維持・増進や病状の悪化予防等のためにセルフケアできるよう研究・教育を推進しています。そのために、医療機関だけでなく、地域（自治体等）との連携を強化し、異分野融合・医産学看連携を進めています。



図1 兵庫県立大学大学院看護学研究科 各看護専門領域



図2 看護学研究科 HP
各看護専門領域の紹介

アピール ポイント

看護の独自の機能は、病人であれ健康人であれ、各人が健康あるいは健康の回復に資するような行動を援助することであると言われてるように、看護は人々が行うセルフケア（個人が生命、健康、および安寧を維持するために、自分自身で行う諸活動の実践）を支え、新しいセルフケアの方法についての方向づけや知識を提供し、新しいセルフケアを獲得できるように精神的に支えます。特に、看護は、人々が自身の健康に関連して、意思決定したり、行動をコントロールしたり、知識や技術を習得したりする時に、人々を支援します。